

# SDGs〜持続可能な取組〜



## 戦争と平和について考えてみよう

十津川村立十津川中学校

全学年

特別活動

めあて

戦争は最大の人権侵害であり、世界が平和になるためには、私たちはどんなことを考え、何ができるのかを考えるきっかけとする

本校では毎月11日の人権を確かめあう日の取組として、全職員が輪番制で人権講話を行っている。50分の1コマを使い30分程度の話をし、その後教室に戻り、ワークシートに学んだ事や感想などを書くようにしている。

11月は、イギリスで開催されたCOP26の会議の中で、地球温暖化防止のためのカーボンニュートラルについて話し合われたことを受け、SDGsの17のゴールのうち、人権に大きく関わる16番目にあたる、「平和と公正をすべての人に」に焦点をあて、話をする事とした。



- ・パワーポイントで資料を作成し、体育館で全校生徒を集め、話をする。
- ・今世界では、新型コロナウイルスの蔓延で毎日のように亡くなっていく人がいるが、その死者数と戦争で亡くなっていった人との間、いったいどれだけの差があるのかを提示し、いかに過去の戦争や、今も世界のどこかで繰り返されている、内戦や紛争によって命を奪われた人たちがいるのかを理解させる。

・世界各地では本校生徒と同じか、もしくはもっと幼い子どもが「子ども兵士」として、自動小銃を背負い、何が正しいのかもわからないまま戦争に加担している現実があり、自分たちがいかに平和で穏やかな国に生まれ、恵まれているのかを実感として捉える。

- ・自分たちは何を願い、何ができるのかを考えさせるため、「100人の村」を紹介し、その詩の中にこそ、本質が隠れているのではないかを考えさせる。



○生徒のワークシートより

これだけ連日、新型コロナウイルス感染症でたくさんの方が亡くなっているのに、戦争や内戦で亡くなった人が、その何倍も何十倍もいたことにびっくりした。100人の村のように、お互いがお互いの違いを認め、仲良くできる世の中になって欲しい。